

編輯後記

「赫々たる戦捷の新春を茲に迎へ、國運の彌榮を一向に念じ、吾等が文藝の道も共にその榮光に浴して、愈々隆昌ならんことを心から祈るものである。

「戦争究極の目的は高度國防國家の確立、人類の福祉、世界平和の招致にある。それを促進し達成するもの即ち文化である。その文化を實現し完遂する道の一つとして藝能は存在する。文藝にいそしむ人々の使命、今後愈々重大なるを痛感する。

「國民劇の樹立が提唱されて以來、移動劇團戦時慰問團の活躍は目覺ましく、農漁村、工場等の素人劇の創始、紙芝居の改新研究も漸く華々しく、總べてが昨年を出發點として發展の途上に在る。頼もしきかな。

「情報局主催國民演劇コンクールに選出されしもの十四劇團、日本文化中央聯盟の大家演劇コンクールに参加申込せしもの十三劇團があり、既に作品發表済みのものに、歌舞伎の「妹脊山」、新生新派「山參道」、ムランルージュ「伽藍」、梅澤一座「算盤」

等があり、いづれも好評なのは悦ばしい。

「將來を期待されてゐる前進座が昨一年を映畫製作に没頭したのは惜しいが、他方、文學座が眞の國民劇として研究所から街頭へ進出した。その發表作品の中でも「パスツール」、「砂の上」など歡迎された。

「東都劇壇の流動、焦慮、健闘、躍進、甚だ進取的なのに引替へ、關西劇壇は餘りにも無爲に、徒に沈滞をつゞけてゐるのは尙がゆい。たゞ文樂のみが獨自のものを持ち、劇壇へ參考資料を提供してゐることは誰も認める。協同劇團の解消以來、新しい劇團も亦甚だ振はない。

「林長三郎は由縁ある故名優何某の名を近く襲ふと聞く。それも藝道精進の一助とならうが、思へば今はかゝる遺風に拘泥してゐる時でない。興行者がかゝる便乗的企畫に未練を斷ち得ぬやうでは、國民劇の促進も樹立も覺えない。外面的な興行政策以上に内部的な反省と研究を要望する。

編輯部 林 秀雄
大 西 重